

銀二拾枚

女房

右之者儀、姑江就孝行書面之通被下候之間、其段可被申渡候、

〔寶曆集成絲綸錄十七〕寶曆四戊年八月

藤堂和泉守御預り所
大和國宇陀郡根生村

銀貳拾枚

平三郎

右之者數年親江孝行仕候ニ付、被下之、

〔守國公御傳記三〕書院番田井義孝多源次後ニ與兵衛ト改ム夫妻祖母ニ事ヘテ至孝ナルヲ以テ、寛光公ノ時

賞セラレ、加秩ヲ賜ヘリ、公〇松平親シク其狀ヲ視ントテ、義孝ガ宅ニ至リ玉フ、老婆年老ヒ、身體

自在ナラザレバ、義孝抱持シテ出タリ、公膝ヲ進メテ近ヅキ、種々懇詞ヲ加ヘ玉ヒケレバ、老婆答

謝ノ辭ヲ述べ奉ント欲スル體ナレドモ、感佩ノ情胸ニ迫リ、言ヒ得ズシテ泣伏セリ、義孝モ側ニ

アリテ感泣ニ堪ヘズ、滿坐皆流涕セザル者ナカリケル、尋デ恩賜アリ、且義孝其年五月、江戸祇役

ノ任ニ當リタルガ、老婆四月、中下世シケレバ、優待ヲ以テ祇役ヲ免シ、諸事ヲ意ノ如ク處置スベ

シト命ジ玉フ、或時老婆飲食ニ臨ミ、偶然生業蘇ナ欲セリ、寒天積雪ノ時ナレバ、有ベキモノニア

蘇五六莖アリ、天ノ與ヘト悦ビ、急ニ折取リテ、老婆ニ勸メ是ヨリ後藩中ヲ始メ、農商ニ至ル迄、孝

義ノ者ヲ賞シ、衣服米金等ヲ賜フコト連綿タリ、

〔一話一言三十五〕牛天神下孝心の者

金杉水道町家主井筒屋佐兵衛店に、近年引越し參り申候、竹帚商賣仕候吉五郎と申候三十七歳、

母親へ孝心之者に付、當六月四日町奉永田様備後へ御呼出し、御白洲にて、孝心に付、銀五枚爲御

褒美被下置、誠に難有事に候歸りに八丁堀御掛り様へ被呼被仰聞候は、是迄孝心之者度々心得

違いたし、慢心おこし、却て御褒美頂戴之後、不孝にて被叱候者も有之候事故、猶又此上大切孝心